



経営上のお悩み、相談しませんか？

「よろず支援拠点」は、国が平成26年度から全国に設置している無料の経営相談所です。中小企業の皆様の売上拡大や経営改善等、経営上のあらゆるお悩みに対応します。

相談事例の紹介

担当コーディネーター 白石 伸夫

地域ブランドを活かして大きな取引を獲得！

01 相談のきっかけ



相談者は、個々でどぶろくを醸造していた7軒の農家民宿が集まって設立した合同会社です。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって観光客や宿泊客が激減したことに伴いどぶろくの売上も大幅に減少しました。そこで、どぶろくの売上をカバーすべく、甘酒の商品化と外商を決意し、令和3年6月に「甘酒の販路拡大」「流通に対応した製造体制づくり」「商品開発」の3つの課題を持って当拠点を訪ねてこられました。

02 現状分析と課題把握



手作りの甘酒は大量生産ができず、競合店と比べると非常に高価な商品でした。また、品質を保つためには冷凍保存するしか方法がなく、流通面でも競争力が弱いことを相談者も理解しており、打つべき手が見つからず悩んでいました。そこで、村を上げて取り組んできた「どぶろくの村」というブランドが強みになると考え、食品会社へ原料供給という形での販売を検討しました。コーディネーターのネットワークを駆使した結果、県内の中堅アイスメーカーが興味を示してくれました。

03 解決策の提案と実施



まず、三原村のお米を使ってコストをかけず大量に米糨を製造してもらうため、酒造メーカーとマッチングしました。次に、安全衛生管理の指導と糖度を上げる技術的指導を高知県工業技術センターに依頼し、糖度50度を超える甘こうじの製造に成功しました。さらに、村長の手助けもあって原料の米糨と製品を保管する冷凍庫を確保することができ、令和5年7月にアイスメーカーとの商談を経て、正式に取引が始まりました。「甘酒アイスキャンデー」のプレスリリースも行き、地元新聞社や放送局の取材を受けて大々的にPRしました。

04 支援の成果



令和4年6月～8月で約3tの甘こうじを受注（試験販売用）納品することができ、大きな売上を獲得することができました。

今後は、業務用の甘こうじを砂糖の置き換え原料として販路開拓を行っていく予定で、現在スイーツ工場などに提案している段階です。また、本業のどぶろく製造の新工場も無事完成し、令和5年8月からは念願だったどぶろくの共同生産がスタートしました。さらに、どぶろくの良さを未来へ繋いでいくために、どぶろく文化の継承者を確保する活動にも積極的に取り組んでおり、益々の活躍が期待されます。



相談者の声

新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ売上をカバーできる商材ができて大変嬉しいです。コロナ禍で「甘酒アイスキャンデー」のお話があり、進んでいくうちに勇気もらい、念願だったどぶろくの加工場の建設まで実現することができました。今回の取り組みがなければ断念していたかもしれませんが、本当にありがとうございました。今後は、地域おこし協力隊の方と一緒に、さらなる新商品の開発や販路開拓へ力を入れていきたいです。



土佐三原どぶろく合同会社

代表社員 東 久美

住 所 幡多郡三原村宮ノ川1207-1

T E L 0880-46-2681

お問い合わせ・ご相談予約 (公財)高知県産業振興センター内 高知県よろず支援拠点

住 所 〒781-5101 高知市布師田3992番地2 高知県中小企業会館5階

Email yorozu@joho-kochi.or.jp

T E L 088-846-0175

対応時間 8:30～17:15(土日祝日を除く平日)

高知県よろず

検索

